

シオン通信

大宮シオン・ルーテル教会 礼拝説教集

2011 年 1 月 第 31 号

日本ルーテル教団

大宮シオン・ルーテル教会

〒331-0814

さいたま市北区東大成町 1-229

phone/fax : 048-663-0215

URL<http://omiya.church.ne.jp>

Email : himei-y@oregano.ocn.ne.jp

大宮シオン・ルーテル教会

梁 熙 梅(やん・ひめ)

新年も主の祝福の中を歩めますように

遅くなりましたが、新年のご挨拶を申し上げます。今年も、皆さまの歩みが祝福され、み手の導きの中で平安な一年でありますようにお祈り申し上げます。

さて、大宮教会ではこの新しい年に、何か新しいことを試みたいということで、月一度、第三主日午後2時から、礼拝をもう一つ増やすことを計画することになりました。普段行われている礼拝スタイルとはまったく異なった形の礼拝を考えています。行われる場所も礼拝堂ではなく一階の部屋です。聖餐を囲んで、集められたひとり一人がメッセンジャーとなりますし、黙想や祈りも普段の礼拝では行われていない形で行います。また、讃美も多様なものが歌われます。イメージとしては、最初期のキリスト教共同体の家の教会を描いています。朝、用事が出来てしまって朝の礼拝には間に合わないけど、午後なら出られるという方のご都合にも合うでしょう。または、距離が遠いところに暮らしておられる方も、ゆっくり足を運べる時間帯ですので、どうぞ、お気軽に立ち寄ってくださいますように、お待ちしております。

さらに今年は、受洗準備クラスをスタートしました。名前は受洗準備クラスですが、聖書一冊を、一年をかけて通読することと、キリストの教会とはどういうところなのか、教理の学びを通して、教会について詳しい理解を得ることが目的です。1月18日よりスタートしましたが、求道者の方々や既に洗礼を受けていらっしゃる方々も一緒に学んでいます。互いが刺激し合い、気づかされる大切な場となることでしょう。

私個人としては、この一年をかけて、山口里子さんが著した「マルタとマリア」を韓国語へ翻訳する計画をしています。教会の働きの多忙な中で無事に終わられるか心配もありますが、少ない時間を大切に活用して行きたいと思っています。

今年は例年より寒いと言われますが、寒い中でも主の熱い言葉は皆さまの心を燃やし、寒さを乗り越える原動力となって働いておられることと信じます。そのためにも、今年も続けてシオン通信を通して、みなさまのところにみ言葉を届けさせていただきます。どうぞ、つまらないものですが、お読みくだされば幸いです。

聖書 詩編1篇

1 いかに幸いなことか／神に逆らう者の計らいに従って歩まず／罪ある者の道にとどまらず／傲慢な者と共に座らず2 主の教えを愛し／その教えを昼も夜も口ずさむ人。3 その人は流れのほとりに植えられた木。ときが巡り来れば実を結び／葉もしおれることがない。その人のすることはすべて、繁栄をもたらす。4 神に逆らう者はそうではない。彼は風に吹き飛ばされるもみ殻。5 神に逆らう者は裁きに堪えず／罪ある者は神に従う人の集いに堪えない。6 神に従う人の道を主は知っていてくださる。神に逆らう者の道は滅びに至る。

聖書 マタイによる福音書4章18～25節

18 イエスは、ガリラヤ湖のほとりを歩いておられたとき、二人の兄弟、ペトロと呼ばれるシモンとその兄弟アンデレが、湖で網を打っているのを御覧になった。彼らは漁師だった。19 イエスは、「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」と言われた。20 二人はすぐに網を捨てて従った。21 そこから進んで、別の二人の兄弟、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネが、父親のゼベダイと一緒に、舟の中で網の手入れをしているのを御覧になると、彼らをお呼びになった。22 この二人もすぐに、舟と父親を残してイエスに従った。23 イエスはガリラヤ中を回って、諸会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、また、民衆のありとあらゆる病氣や患いをいやされた。24 そこで、イエスの評判がシリア中に広まった。人々がイエスのところへ、いろいろな病氣や苦しみに悩む者、悪霊に取りつかれた者、てんかんの者、中風の者など、あらゆる病人を連れて来たので、これらの人々をいやされた。25 こうして、ガリラヤ、デカポリス、エルサレム、ユダヤ、ヨルダン川の向こう側から、大勢の群衆が来てイエスに従った。

主のみ言葉の証人としていられる幸い

ある人が、今の日本のことを、サイレンとジャパンと呼んでいました。それは、平和であるとか、みんな平安な生活をしている意味のサイレントではなくて、みんな政治やその他のことに対して、不満や怒りをもっているけれど、それをどのように発散したらいいかわからなくて、

我慢している静かさであるということです。つまり、近隣の国では、政治に不満をぶつけるためのデモもやる、会社に対しての不満も組合のデモなどを通して現している。それ自体の良し悪しはともかく、問題をはっきりとアピールできる力がある。しかし、今の日本は、そも

そも、立ち上がろうとする意欲さえ失われているのではないだろうかということでした。そういう意味において、今、サイレントであるというのは、いつまでも維持できる状態ではなく、時が満ちれば、異常な形で爆発されていく、非常に危険な静かさであるということでした。

そういった状況の中に生きるある私たちは、しかし、そうは言うけれど、今のひと時を、静かに、周りに迷惑をかけずにいられることに、幸いな暮らしをしていると思う面もあります。今日も人との揉めことなどない、幸いな一日にあることを祈りますし、そう過ごせたことにほっとするわけです。けれど、一面そう思いながら、隣の人とニコニコして挨拶を交わして一人に戻ったとき、心のどこかで、今ここにはない何かを追求している自分、言葉を変えて言うならば、こんなはずじゃなかったのに！と思う、満たされない思いに陥るときはないでしょうか。何かもやもやしている気持ちで、しかし、立ちあがろうとしても、その術さえ見つけられなくて、本当にこれでいいのかと、不安さえ覚える時はないでしょうか。

さて、今日は詩編 1 篇と福音書の日課を合わせてみ言葉を聞きたいと思います。先ず、先ほど交互に拝読しました、週報の中刷りの詩編 1 篇は、「いかに幸いなことか」と言う言葉から始まります。

詩編は一五〇編までありますが、この一五〇編まである詩編には、聖書全体のメッセージが含まれていると言われます。全宇宙の神の創造から黙示録まで総括されたのが、詩編一五〇編の中で語られているということです。すると、聖書全体が詩編一五〇編の中にて語られている、聖書全体のメッセージとは何でしょう？みなさんは何だと思いますか？

「愛している！」「私はあなたを愛している！」でしょうか。「神は愛なり」と言うでしょう。「神は愛でおられる、愛そのものである」。その愛でおられる神が、旧約聖書を通して、新約聖書を通して、イエス・キリストの十字架と復活のできごとを通して、み言葉を証しする預言者や使徒たちを通して私たちに言いたいことは、「愛している！」。この一言なのです。だけど、人にはそれがピンとこない！ここに問題があるわけです。

聖書全体のメッセージを含んでいる詩編一五〇篇の、その第 1 編の 1 節は、「いかに幸いなことか」という導入句でもって始まります。その意味は、この神の愛を知った人は「いかに幸いなことなのでしょう！」という、神の祝福への招きの言葉であるということでもあります。

このことは、神を信じる者にだけ特権として与えられている恵みだと思うのですね。私たちが何の努力もしなくても、無条件に与えられる恵みがある。しかも

それは、お金では価値をつけることのできないもの、尊い高価な恵みなのです。その恵みが、私たちの人生の歩みに先だっている。つまり、神の祝福が私たちの思いと願いとを超えて、先行している。私たちの歩みの先に幸いな道が置かれているのだから、私たちはその中を歩むように招かれているということであります。聖書で言う場合の「幸い」とはこういうことを言うのです。歩く道はいろいろあるけれど、その中から神さまが祝福しておられる祝福の道、恵みのみちを歩むように、神さまが先だっておられる。こんな私が、救いの道を歩くようにされていると言うことですね。

「いかに幸いなことか」。詩編記者は、この招きの言葉のすぐ後に、「神に逆らう者の計らいに従って歩まず、罪ある者の道にとどまらず、傲慢な者と共に座らず、主の教えを愛し、その教えを昼も夜も口ずさむ人。」と書きます。

詩編記者も、前に置かれている道の中には、このように悪しき道もたくさんあるのだ、と言っています。神に逆らう人の計らいに従う道もある、あらゆる誘惑に誘われて、人々を欺けるようなことをして生きる道だってある。傲慢で、自分こそがと、人を鼻で動かそうとする人と一緒にいることを喜ぶ道だってあるし、実際自分こそがそうかもしれない。または、絶望に至る道だってある。けれど、その道から離れて歩む、近寄らない、主

の教えを愛し、その教えを昼も夜も口ずさむようにして、神さまが祝福して下さる道を選び取り、その道を歩む人は「いかに幸いな人なのでしょう！」と述べているのです。

「主の教えを愛し、その教えを昼も夜も口ずさむ」こととは、ですから、神さまを信じる信仰をもつ人には条件でもあるかもしれません。というのは、私たちは、信仰を持っていなくても、悪しき道から離れようと常に気をつけます。日々の祈りがそういう祈りかもしれません。人とのもめごとがないように、トラブルがない一日でありますように。人に迷惑をかけないで暮らせますようにと願うわけですから、それ以上の悪しき道を歩むことなど思うわけがない。しかし、だからそれでいい人生の歩みなのか？それですべて満たされた生き方にはならないのではないのか！と、この詩編一編は問うているのです。すなわち、悪しき道を歩まないということは、主の教えを愛し、その教えを昼も、夜も口ずさむこと！それが、本当の、幸いな生き方ではないだろうか、祝福の道に繋がる歩みではないだろうか！ということでもあります。

私たちの教会では、18日から受洗準備クラスが始まりましたが、クラスの皆さんは、一日聖書を5章ずつ読むような課題が与えられました。もちろん、私も一緒に読みます。一日五章を読むのはと

てもたいへんなことです。朝のうちに読まない、一日の忙しさにつぶされて、読む時間を取れない可能性だってあります。ですから、朝のうちに読んだ方がいいです。そうすると、朝読んだ聖書の言葉が、一日中頭から離れないのです。疑問があったならなおさら、それはどういう意味なのか！感動する部分だって必ずあるはずですから、聖書のみ言葉から与えられた感動をもって一日を過ごすことになるのです。私自身、何度も呼んできた聖書が、今回また一緒に読みながら、新たなことを発見するわけです。

話を戻しますが、今、私たちみんなは神さまの祝福に与ろうとここに集いました。しかし、ここに集っていますが、それ＝昼も夜も主の教えを愛し口ずさんでいる、という風なことではありません。確かに、私たちは洗礼を受けていますし、主日礼拝とその他のところでたくさん奉仕をもしています。しかし、そのことが幸いではない。というのは、神さまが差別して見捨てていると言うことではありません。そうではなく、人の歩みの前に神さまは先行して歩み、祝福と恵みの道を備えておられますが、その道を人が歩かなければ、意味がないということでもあります。

ここは私たちが気をつけて理解したいところですが、ともすると、神の救いは人間側の努力によるものではないと、応答する人間側の義務まで怠っ

てしまう場合がありますが、それは間違っています。特にルーテル教会ではそう思う可能性が大きいです。そうではなく、人には先行する神の恵みに対して応答する義務というものがあります。その応答とは、先ず行動に移す奉仕ではなく、昼も、夜も、み言葉を黙想すること、聖書を読む、祈りをする、これが第一の応答であります。これが先にあって行動による奉仕が伴われるのです。この両方がそろってこそ本当の応答の姿勢と言えるでしょう。

ですから、神さまがいくら祝福の恵みの道を備えておられるとしても、聖書を読まない、祈りもしないで、どうしてその道を知ることができるでしょう。その道を知るためには、み言葉によって知らされなければ知る術がないのです。それは、日曜日に礼拝に来て聞く説教だけでは足りません。日々、昼も夜も、時を問わずむさぼるように聖書を読む、それによって聖書に聞く、祈ることを通して、「その人は流れのほとりに植えられた木。時が巡りれば実を結び、葉もしおれることがない。その人のすることはすべて、繁栄をもたらす。」(3 節)という祝福の状態、それこそ真の幸いな人として生きる状態へまで導かれるのではないのでしょうか。

本日の福音書の日課は、四人の人が主の弟子として召される箇所です。また、イエスさまの教えと福音を聞き、病気や

患いを癒されるのを体験し、聞いた人たちが、各地からイエスのところに集り、従っている様子があります。四人の弟子たちも、他の大勢の人たちもイエスに従って立ち上がった人たちです。四人の弟子たちは、自分たちの仕事をすぐ捨ててイエスの弟子となって従います。彼らに、イエスの噂がどのように知り渡っていたのか！今日の箇所から見ると、会堂で教え、天の福音を宣べ伝えている、病気を、癒し患いを癒しておられるイエスの姿が述べられていますが、この四人の弟子たちにも、きっとこのイエスの姿を知らされていたのでしょうか。その彼らが、その時まで営んできた仕事をその場において、直ちに立ち上がってイエスの後に従っていく。それほど簡単な事ではなかったはずで

後の彼らのイエスに対する従い方を見てみると、彼らは、決して立派な人たちではありません。多くの弱さを抱えています。イエスが十字架の苦しみを負われる際には、主を知らないと言え、裏切るような弱い人たちでした。その人たちが、しかし今は従うことを決断していく。それは、彼らにとって今のイエスに、希望があった、ヴィジョンがあった、何か、従おうと決断できた魅力と言うものが、イエスにあったから立ち上がることができたのではないのでしょうか。イエスの教えを聞き、イエスが宣べ伝える天の福音を通して、病を癒し、思い煩いを追い払うその力あるわざを通して、

彼らなりに感じて、心動かされたところがあったから、だから、仕事まで捨てて従う決断ができたのでしょうか。

私たちだって、彼らに負けないほど、イエスの教えや宣べ伝えられる福音を幾度も聞いてきましたし、聖書の中の病の癒しや思いわずらいの癒しなど、数え切れないほど聞いてきました。もちろん、主に従った弟子たちのように弱いものではありません。しかし、その私たちに、この主の弟子たちのように、自分にとって大切なことを捨てて、献身的に従う、ささげて従うと言うことはどういうことだったのでしょうか。一時だって、仲間との意見の争いに負けまいと頑張る自分が果たして献身して従っていたと言えるのだろうか…信じていますと告白しながらも、やはり前に置かれているあらゆる道の中から、主が祝福し恵みの道として備えておられる道の区別もできずに、自分にとって損得の道ばかりを数えてきたのではないだろうか…

ルターは、この詩編 1 篇の中に四回も使われている「神に逆らう者」というのを、自分ではないという風にすぐに考えてはならないと言います。むしろ、私たち自身が常に「神に逆らう者」、『悪しき者』となることを恐れなければならない、と言うのです。つまり、悪は常に私の中にあって働いていて、何とかして神の祝福の道から外れて歩むように導くのだ、と言うのです。だから、「神に逆らう者」

とは、この私自身のことであって、他どこかの誰かのことではない、ということでもあります。もしかしたら、そのような自分との闘いの道のりが、信仰の道なのかもしれません。

その信仰の道のりで、悪しき者である私との闘いの武器は、神の言葉しかありません。この世のどんな立派な教えも、私の中にある知恵も知識も、私を神の道からはずそうとする悪との闘いの武器にはなりません。つまり、神さまに従うということは、決して、静かで穏やかな、サイレントな状態を維持することではないということです。自分の中の悪との闘いは、苦しい戦いです。静かに闘えるはずがありません。悪をとりのけて、立ち上がって歩まなければなりませんから、時にはにこにこした挨拶もできない日もあるでしょう。しかし、その真の闘いをも惜しまない道に、主の恵みがあります。神の祝福の道が広げられるのです。「私はあなたを愛している」との神の告白がそこに聞こえるのです。その声を聞く人は、真の幸いな人でありましょう。そして、そこ声が聞こえるところではじめて人は神の福音の証人として歩み始めることができるのでしょう。その道を選び取るのに躊躇しない歩みでありますように、この一年の新しい歩みが祝福されますように祈ります。

お祈りします。

私たちのいのちの源でおられる神さま

私たちは、常に、平安で、静かに、平穏な生活ができることを願い求めます。しかし、本当の平安は、自分を我慢して平穏な生活を守るところには存在しないことを知らされています。このみ言葉を聞く私たちが、真の平安の中で、神さまの福音の証人となって歩む、幸いな者でありますように。そのために、この世の価値観に安住しようとする私が、再び主の証人として立ちあがることを求める者へと導かれますように。祝福された恵みの道がどの道なのか、それを選び取る知恵を得るために、み言葉に聞くことを怠ることをしませんように、私たち一人一人を導いてください。私たちの主イエス・キリストのみ名によって祈ります。アーメン。



2月の教会のイベント & 梁のスケジュール

6日〈日〉

主日礼拝後、会員定例総会が行われます。

毎週火曜日午後 1 時より受洗準備クラスが行われます。

第二・三水曜日午前 11 時より韓国語教室があります。
4 月より、木曜日午前 11 時からも行われる予定です。

20 日(日)

午後 3 時より関東地区会議総会。

東京ルーテルセンター教会にて行われます。

今年もジュニア・ユース春キャンプが行われます。

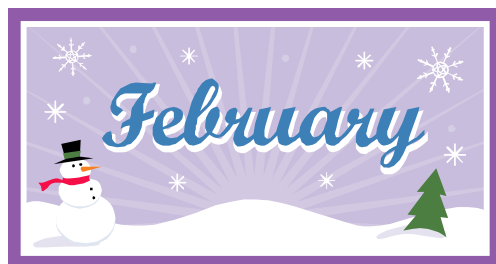
3 月 29 日(火)~31 日(木)

テーマ：祈り

場所：手賀の丘少年自然の家

(住所 千葉県柏市泉 1240-1)

参加費：7 千円(交通費別途)



【2011年2月礼拝予定】

【主日礼拝】毎週日曜日 朝 10 時 30 分～

2月6日(日) 顕現節第6主日礼拝 聖書：申命記 30：15～20、1 コリント 2：6～13、マタイ 5：21～37 主題：神が勧める和解
2月13日(日) 顕現節第7主日礼拝 聖書：レビ 19：17～18、1 コリント 3：10～23、マタイ 5：38～48 主題：神の完全と人の完璧
2月20日(日) 顕現節第8主日礼拝 聖書：イザヤ 49：13～18、1 コリント 4：1～13、マタイ 6：24～34 主題：思いのあるところに心はある
2月27日(日) 顕現節第9主日礼拝 聖書：申命記 11：18～28、ローマ 1：8～17、マタイ 7：15～29 主題：実によって木を知る

(説教主題は今のところの予定です。変更になる場合もあります。)

【その他の集会】

- ・ 毎週火曜日午後 1 時より 受洗準備暮らす
- ・ 第 1・3 水曜日午前 11 時より 韓国語教室
- ・ 第 2・4 木曜日 午後 7 時より 新しい視点による聖書の学び
「虹は私たちの間に」山口里子著講読
- ・ 第 1・3 木曜日 午後 7 時より 祈祷会
- ・ 第 3 木曜日 午前 10 時 30 分～ 家庭集会(田嶋さん宅)
- ・ その他、随時(希望にあわせて)キリスト教入門講座・面談など行なわれています。



大宮シオン・ルーテル教会

〒 331-0814 さいたま市北区東大成町 1-229

Tel/Fax 048-663-0215

URL : <http://omiya.church.ne.jp>

Email : himei-y@oregano.ocn.ne.jp